



開発ニーズと研究シーズ、だけでは
足りないピースが KISTEC にはあります。

産学公連携事業化促進研究

事業のご案内

公募から採択決定までのスケジュール

- | | |
|------|-------------------------|
| 2月上旬 | 公募要領の公表 (KISTEC ホームページ) |
| 3月 | 研究概要書の受付 |
| 4月下旬 | 予備審査の結果通知 |
| 5月中旬 | 申請書の受付 (予備審査の通過者のみ) |
| 5月下旬 | 審査会 (対面) |
| 6月上旬 | 審査結果の通知 |
- 



地方独立行政法人

神奈川県立産業技術総合研究所

チームづくりから申請まで



1 チームづくり

まずは、お気軽にご相談を。



当事者間では解決できないことも、産学連携機関・試験研究機関の KISTEC なら、きっとお役に立てます。



こんなことで困っていませんか？

- ・大学の先生の研究成果を活用したいけど、そのままでは事業化にはつなげられない。
- ・産学連携の経験が乏しく、どのように連携をすればよいかわからない。 などなど。

KISTEC の「技術コーディネーター」が、より良い連携のカタチをご提案します。

良い事業化は、
良いチーム作りから。

【申請要件】

「研究シーズ」（大学・企業）、「開発ニーズ」（企業）がそれぞれ 1 法人以上のチームで、うち 1 企業以上が神奈川県内に主たる事業所を有する中小企業であること。



2 研究計画の立案



ポイント① ニーズ・シーズの明確化

開発ニーズ = 「」

研究シーズ = 「」

そして、

KISTEC の役割 = 「」

☆ リーダー（代表法人）を中心に、役割をあいまいにせず、たがいの長所を認識しよう。

ポイント② 3 年間の見通しをプロット

事業化の具体像 = 「（製品イメージ）」

3年目のゴール = 「製品化や国等の資金獲得」

2年目のゴール = 「」

1年目のゴール = 「」

☆ ゴールから逆算して、計画に落とし込み、現状の弱みと強みを明確化。研究概要書・申請書作成につなげる。

※ チーム内で検討・確認し、鍵カッコ内の白抜き部分をクリアにする。



3 申請書類の作成、本審査の準備



2 段階審査（予備審査と本審査）

予備審査 = 研究概要書（A4・2 枚）

- ・書面のみによる選考
- ・図表なども用いて簡潔にアピール

本審査 = 申請書類 + インタビュー
・「審査の視点」* に対応した計画の精査

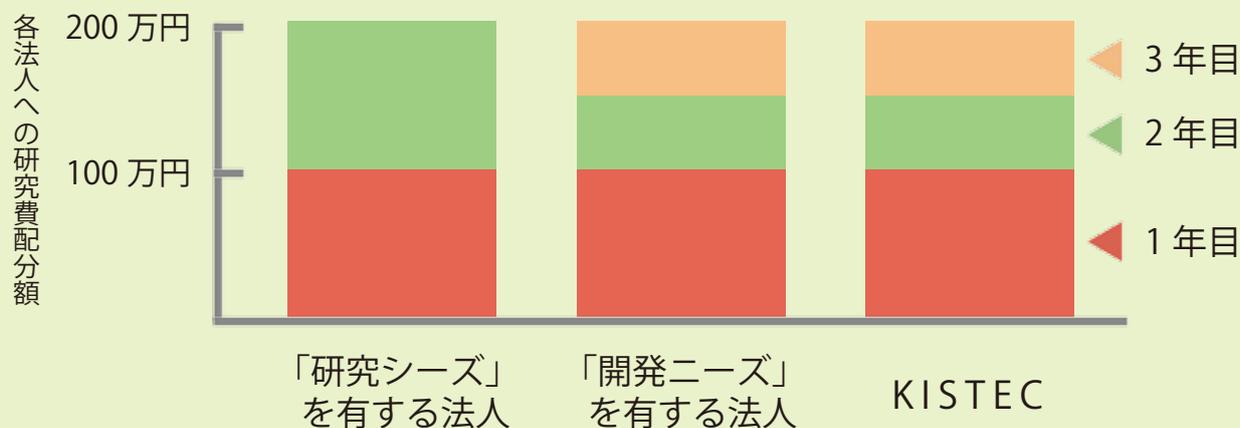
- ※ ① 企業の開発ニーズに関する技術課題の適正と社会への貢献度、
- ② 研究シーズに関する特許・技術・ノウハウ等の優位性、
- ③ 開発ニーズと研究シーズのマッチングに関する妥当性、
- ④ 事業化計画の妥当性、⑤ KISTEC との共同研究の妥当性

※ 申請様式は募集開始時にホームページに掲載されます。

採択から事業化に向けた研究活動へ

1 KISTEC が研究費の一部を負担

研究費の配分イメージ（上限額〔600万円/3か年〕の場合）



※ 1 課題あたり総額 600 万円（期間：3 年間）。年度毎の上限額は、1 年目 300 万円、2 年目 200 万円、3 年目 100 万円。進展が特に優れている課題に対しては、研究費の追加配分を検討します。

2 共同研究の実施



ポイント① 参加する法人間で契約を締結

- ・ 共同で研究を進めるため、参加者、役割分担、研究費、計画を明確にします。
- ・ 中小企業に不利な条件とならないよう、契約書は KISTEC ひな形を使用。

ポイント② 産学連携を「公」がサポート

- ・ 大学との共同研究の経験が浅く、大学教員とのコミュニケーションに不安があっても大丈夫。日常的に中小企業のモノづくり支援をしている KISTEC 研究員が円滑な関係構築に努めます。

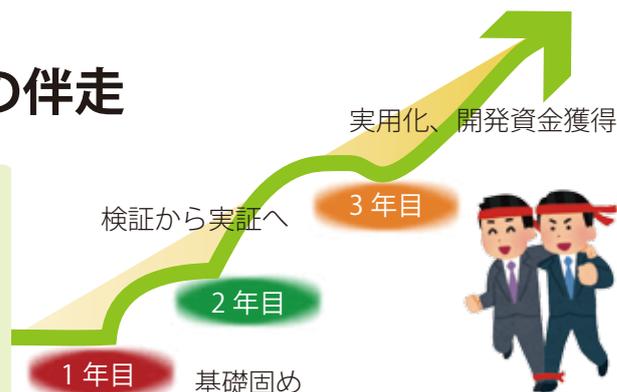
【KISTEC の職務発明等の取扱いと共有特許等の実施について】

KISTEC では、職員が職務において発明等を行った場合、職務発明として、KISTEC が特許を受ける権利を承継することを原則としています。また、企業等が共同発明等を実施される場合は、実施の状況に応じた実施料相当金の支払いをお願いしています。詳しくは、KISTEC ホームページ (<https://www.kistec.jp/cooperation/>)、または担当の技術コーディネーターにお尋ねください。

3 技術コーディネーターの伴走

経験豊富な技術コーディネーターが研究チームに寄り添ってサポート

- ・ 研究チーム内だけでは近視眼的な取り組みに落ち入ることも。長年、モノづくり支援に携わってきた経験が、可能性を広げます。

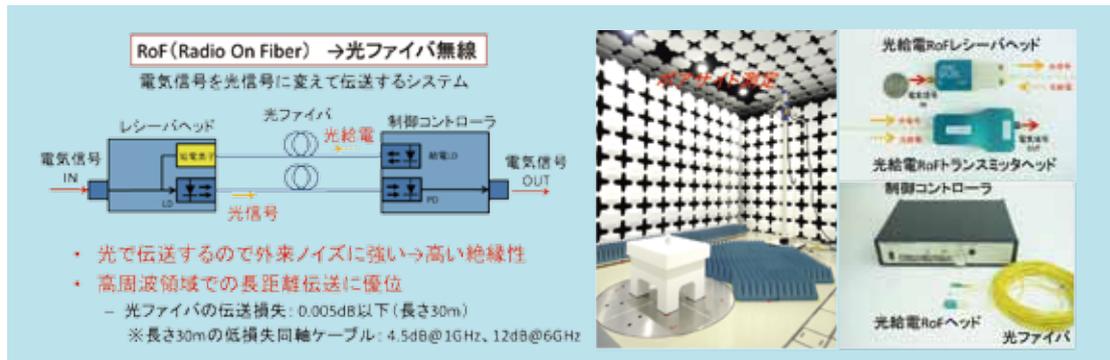


project case - 1

開発ニーズ

研究シーズ

(株)多摩川電子 + 青山学院大学 + KISTEC



次世代電磁環境適合性 (EMC) 試験に適用可能な光伝送システムの開発

(期間: 2017年度 ~ 2019年度)

研究内容

EV (電気自動車) や IoT (モノのインターネット) の技術開発において必要な EMC 計測 (電磁ノイズ計測) および電波計測に適用可能な光給電 RoF システム (光給電 RoF レシーバ、光給電 RoF トランスミッター、制御コントローラ) を開発。
KISTEC の保有する電波暗室、EMI 測定システム、ネットワークアナライザ (VNA) 等の EMC 試験設備を活用して、光給電 RoF システムの有効性を評価。

成果展開

本システムは、青山学院大学の電磁波評価技術と KISTEC の EMC 試験技術を活用して (株) 多摩川電子が製品化。

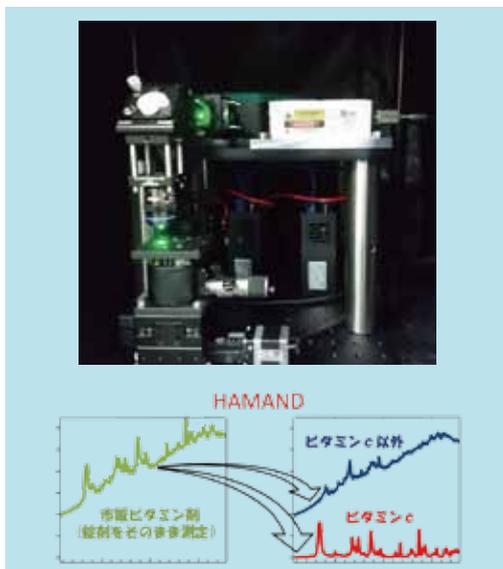
第 5 世代移动通信システム 5G (6GHz 以下) でのアンテナ評価、電波吸収・遮蔽材評価にも有効であるため、車載用電子機器メーカーや無線機器メーカーなどへの販路拡大を目指しています。

project case - 2

開発ニーズ

研究シーズ

(株)分光科学研究所 + 東京大学・早稲田大学 + KISTEC



研究内容

・低コスト高性能ラマン分光ハードウェアの開発
測定装置の普及のためには低コスト化が必須だが、その一方で、食品中の機能性成分含有量を正しく求めるには、数値解析処理の元データとなる測定データの質も極めて重要である。そこで、透過型体積相ホログラフィック回折格子分光器を用いて、低コストでありながら明るく高性能なラマン測定ハードウェアを開発。

・最新の多変量スペクトル解析ソフトウェアの開発
未知成分の検出を得意とする SVD/MCR-ALS 解析ソフトウェアと、既知成分の定量分析を得意とする HAMAND 解析ソフトウェア (日本、アメリカ、ヨーロッパ特許取得済) を開発。

成果展開

開発した装置 CRamol-532 は、生体試料の分子定量装置として、国内の医療系の公的研究機関に納入済。

本装置は、測定ターゲットに対する解析パラメータをカスタマイズすることにより、「機能性食品中のビタミン類の定量分析」、「日本酒のアルコールやグルコース濃度のインライン迅速分析」などに対応することが可能。

ラマン分光を用いた食品中の機能性成分の迅速定量装置の開発 (期間: 2017年度 ~ 2019年度)

地方独立行政法人 神奈川県立産業技術総合研究所

(本事業に関するご質問・お問い合わせはこちらまで)



研究開発部 橋渡し研究課 〒243-0435 海老名市下今泉 705-1

TEL 046-236-1500 (代表) E-mail sm-j.s.ken9@kistec.jp

詳細はホームページへ

KISTEC 事業化促進研究

